

## この会社にしか 出来ないことがある



第一三共常勤顧問 中山 讓治  
なかやま じょうじ

製薬企業が1つの新薬を開発するには10年以上の時間と数百億〜1000億円規模の投資が必要になる。成功確率は極めて低い(2万5000分の1)。しかし、新薬を創製することが出来れば、特許によってその物質の独占が担保される。病気は世界共通であり、優れた医薬品は世界中の患者さんが待ち望んでいる。また、いまだ治療薬のない疾病も非常に多い。新薬事業はハイリスク、ハイリターンの事業で、新薬の特許が切れると、ジェネリックが参入し売り上げが消滅する。新薬を出し続けられるか否かが新薬メーカーの成長を決める。自社に有望な開発候補品がなければ、他社の製品や候補品を獲得することで企業成長を実現するしかない。

第一製薬は抗菌剤のタリビットとクラビット、三共は高脂血症薬メバロチンや降圧薬オルメテックなどを創製した。これらの製品は世界市場で高い評価を受け、多くの患者さんの治療に使われた。しかし、さらにグローバルな成長を目指すためには、新薬開発力を強化し、より多くのグローバル製品を創製する必要がある。そのために、両社は2007年に事業統合を行った。2010年には統合に関わった役員交代があり、取締役会でそれぞれの役員が感想を述べた。最後に島田馨・

監査役(元東京大学医科学研究所附属病院院長)が話された。

「私は医師、感染症の専門医でもあります。以前、ある種の結核では治療薬がなく、私は患者さんが病に侵され、重篤化し、亡くなるのを見ながら、なすすべもありませんでした。しかし、この会社が開発した抗生剤の投与によって治療することがわかりました。患者さんと担当医にとって、このうえもない福音でした。そして、それはこの会社があったからできたことです。これから事業統合の成果を実現していくうえで、さまざまな課題を克服することが求められます。多くの苦勞が伴うと思いますが、『この会社にしか出来ないことがある』ということを決して忘れないでください」

その場に陪席していた私は、その言葉に深く打たれた。私はその直後に社長CEOになり、10年間経営に携わった。その間、インド子会社での深刻な品質問題や新薬開発の大幅な遅延など困難な経営状況を幾つか経験した。その際、いつもこの言葉に背中を押してもらい、前に進む力をもらった。また経営方針の大幅な見直しなど難しい判断もあったが、最後にこの言葉に照らすことで、大過がなかった。